

はじめての場所が苦手、はじめての人が苦手、はじめての活動が苦手、そのような児童生徒はたくさんいると思います。自己肯定感が低く自信のない子、失敗することを恐れている子、緊張して頭が真っ白になってしまう子、ルールを理解するまでに時間のかかる子、いろいろな課題をもっている子どもたちのつまずきに気づき、少しでも安心して活動に参加できるように支援することはとても大切なことだと日々感じています。

今回は、実態把握とつまずきの予測の大切さについて、小学部の子どもへの支援を例に紹介します。

<1回目居住地校交流にて>

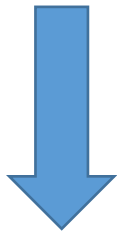
きのかわ支援学校では、本校に通っている児童・生徒が、本人や保護者の希望がある場合に住んでいる地域の小中学校で、同学年の友達と一緒に活動をして交流を図る居住地校交流を行っています。

はじめての場所、人、活動が苦手な小学部3年生のAくん。居住地校にはじめて行き、はじめて会う児童と活動をしました。活動内容は、グループごとに風の力とゴムの力を使ってプロペラカーを動かすというものでした。活動に対しては、事前に本校で練習していたのでわかっていたのですが、周りの児童が活動を進めていく中、輪に入っていくことができず、どのように行動してよいかわからなくなり涙が出てきてしまいました。



なぜか?

- ・活動に慣れていない。
- ・友達に慣れていない。
- ・自信が持てていない。



<2回目の居住地校交流に向けて>

2回目の交流の活動内容は、転がしドッチボールだったので、同じ学年やクラスの友達と繰り返し練習しました。はじめは、ボールを浮かせてしまっとうまく転がせなかったAくんですが、繰り返し取り組むうちに上手に転がすことができるようになり、ボールを当てる外野もボールが当たらないように逃げる内野もコツをつかみ、楽しそうに活動していました。



<2回目居住地校交流にて>

事前に取り組んだことでルールが理解でき、うまくできるという自信や担任がそばにいる安心感から居住地校の友達と一緒に活動することができました。

本児の実態とつまずきについての再考



本校での事前練習



・ルールがわかった!!
・自信が持てた!!



・主体的に参加できた!!
・楽しかった!!



～感想～

「最後の最後でよそ見して
ボールを当てられた!!」
「でも、楽しかった。」

実態把握とつまずきの予測



失敗を積まないための事前の支援(練習・見通しなど)



主体的に活動できるためのその場での支援(言葉がけ・視覚支援など)



達成感

このような流れを大切にして、特別支援教育を充実させていきたいと考えています。